

1. 病棟の具体的な目標と評価

1) 安全で質の高い看護を提供する

病棟勉強会は、計画通りに実施した。エンゼルケアの勉強会は血液内科病棟と合同で実施し意見交換をすることで学びを深めることができた。研修案内を掲示することでストーマケアや緩和ケア関係の研修に多数参加することができ日ごろの看護ケアに活かすことができた。

皮膚排泄ケアの認定看護師養成研修に令和2年度1名参加する。このことで病棟全体の学習意欲が高まった。今後、更に褥瘡ケアや排尿ケア、術後の創傷ケアの専門性を高めていく。

体と心の質問票を使用してスクリーニングを行い、抽出した問題についてカンファレンスをしたり、医師に相談したり、緩和チームに相談したりして患者の問題解決につなげることができるようになった。デスカンファレンスの実施率は31%であった。目的・テーマが明確な事例に絞って、カンファレンスを実施した。

2) 患者の視点に立った医療安全を推進する

指差呼称担当が推進者となって与薬間違えの防止に取り組み、インシデント件数が減少した。確認不足による薬剤関連インシデントは25件(昨年度比-56件)で与薬準備の際に声出し確認ができるようになった。今後も定着を目指して取り組みを継続する。

患者業務を優先し、整理整頓をアシスタントやクラークに任せる傾向にあり、看護師の整理整頓に対する意識が低い。使用した手で片づけを行い、互いに円滑に仕事ができるよう意識を高めていく。

3) 専門職としての能力開発に努める。

OJTにおいて、1~5年目までの教育プログラム作成に着手し、土台作りができた。これを元に、次年度使用しながら改良をすすめ、ラダーにもリンクさせた1~5年目までのOJT教育体制づくりをしていく。

カンファレンスや病棟会などの話し合いの場で、ファシリテーターを行って、全員が発言できるように支援することで、限られた時間で効率的な話し合いができるようになってきた。互いに学び合える対話の機会を今後も作る。

4) 活気ある職場、元気の出る職場づくりを推進する。

PNSの勉強会を複数回実施し、全員が参加できた。次年度はPNSマインドを強化しリシャッフルを定着させることで超過勤務の縮減につなげる。令和1年度は平成30年度に比べて223時間超過勤務を縮減できた。PNSの看護体制によって、パートナー同士が補完し合い学び合いながら、業務が遂行できるよう取り組みを継続する。

5) 病院運営・経営に参画する。

記録の監査では60~70%まで監査結果の値が上昇した。しかし、認知症ケア加算に係る記録ができていない。個々にフィードバックを行って病棟全体の記録不備の減少に努める。

2. 病床運営状況

表1 令和元年度 病床運営状況

収容可能 病床数(床)	診療科名	月平均		平均在院患 者数(人)	平均在院 日数(日)	病床利用率 (%)	病床 稼働率(%)
		新入院患者 数(人)	退院患者 数(人)				
48	消化器内科 消化器外科	90.8	107.7	44	13.5	91.8	99.1

重症加算病床		有料個室		死亡患者数(人)
病床数(床)	稼働率(%)	病床数(床)	稼働率(%)	
3	95.5	7	100.3	

3. 看護体制

表 2 令和元年度 看護体制

配置人数(人)	看護方式	夜勤体制(準:深)
35	PNS [®]	4 : 3

4. 看護統計

1)重症度、医療・看護必要度

表 3 令和元年度 一般病棟 重症度、医療・看護必要度 I

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
基準を満たす患者の割合(%)	30.3	33.3	35.3	32.1	31.6	32.9	37.1	39.1	33.4	35.8	38.3	36.4	34.6

2)部署データ

(1)抗がん剤治療患者数(件/年)	590	
(2)パスの使用件数(件/年)	686	
(3)褥瘡件数(件/年)	持ち込み	11
	院内発生	24

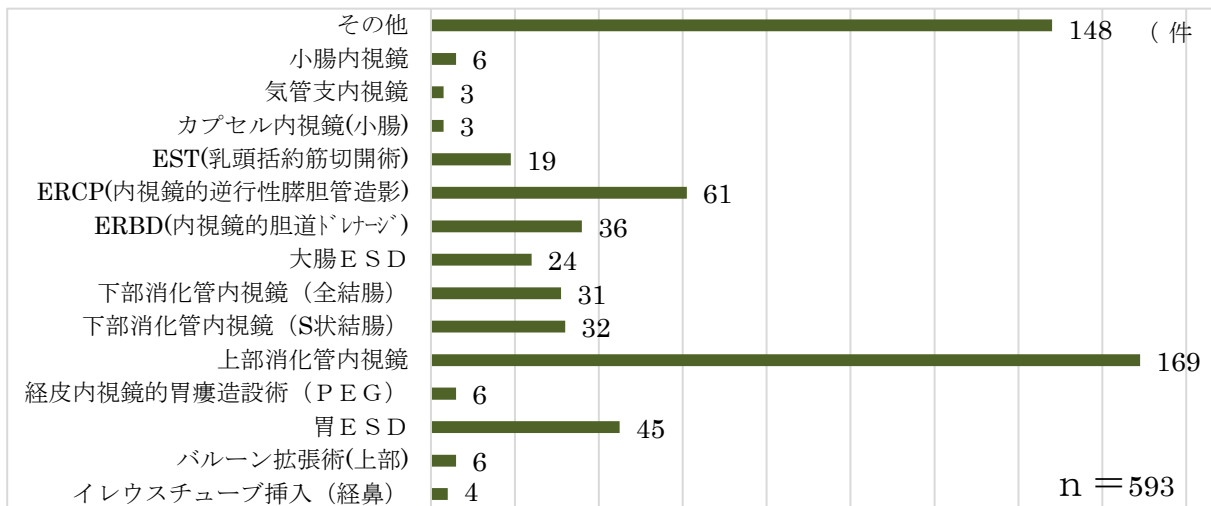


図1 令和元年度 年間手術件数

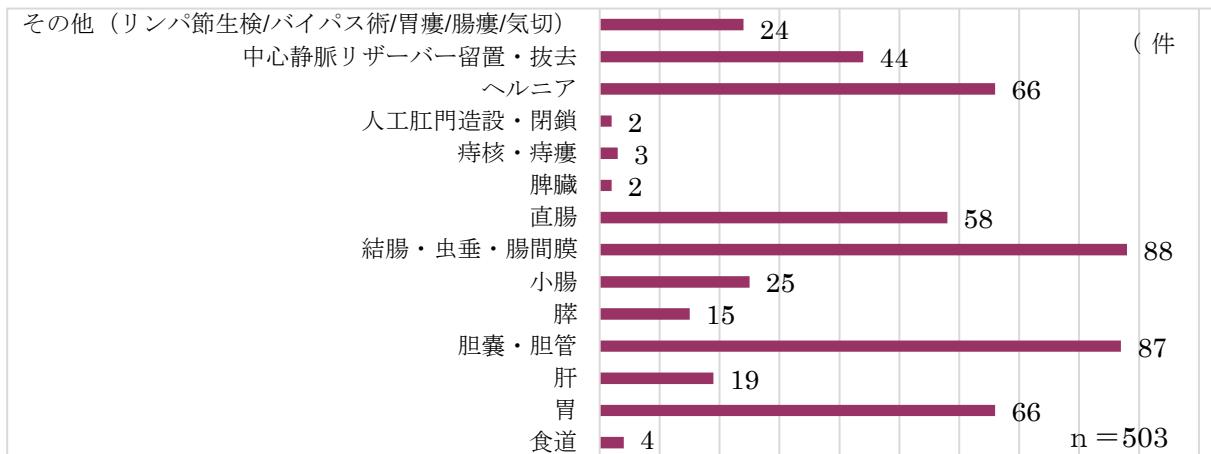


図2 令和元年度 年間内視鏡件数

5.研究業績

1)看護研究発表・研究会発表

発表演題名	発表者	学会名	開催地	開催日
経験年数が浅い看護師の終末期患者、 家族への関わり方の変化 — 第2報 STAS-J 勉強会実施後 —	伊丹 史奈	国立病院 総合医学会	愛知	2019年11月9日
術後患者における身体抑制適応の判断に 影響する看護師の意識	高橋 彩菜	看護研究 発表会	院内	2019年2月8日